

2022

# 未来の子どもたちに残したい ながくての自然

ヒト **1** 種

植物 **600** 種超

動物 **たくさん**

長久手市の人口は約 6 万人  
それよりずっと多くの  
生きものたちが息づいています

ハッチョウトンボ

**長久手市**  
NAGAKUTE CITY

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT **GOALS**

長久手市は SDGs の普及を推進しています。

# 未来の子どもたちに残したい

## ながくて自然環境の魅力

長久手市の西部は都市化が進み、名古屋市に隣接する住みやすいまちです。一方、市の東部には、中央を流れる香流川、川沿いに広がる田園やそれを囲む丘陵地の森など多様な生きものたちがすむ豊かな自然が多く残されています。



# 未来へつなぐ生態系保護エリア

## ながくてふるさといきものの里

次世代を担う長久手の子どもたちのために、すばらしい自然の魅力を伝えていき、多様な生きものたちからずっと恵みがもたらされるよう生態系を保護していくエリア「ながくてふるさといきものの里」を設定しました。

※「ながくてふるさといきものの里」は、私権を制限するものではありません。

### 自然と暮らしの里

生きものからの恵みに感謝し、人が手を加えることで守り伝えていきます。

ひがしやま やつだ

## 東山の谷津田

### 自然を守り育むエリア

豊かな自然環境や多様な生きものを保全し、次世代に引き継いでいきます。

こいが ばさま かみいけ・しもいけ

## 鯉ヶ廻間上池・下池

にのいけしっちぐん

## 二ノ池湿地群

※二ノ池湿地群は、許可なく立ち入ることはできません。



ツマグロヒヨウモン

メス

オス

丘陵地の森

コバノミツバノツツク

# ながくてふるさ

～自然を守り

NEW

こいがばさまかみいけ・しもいけ  
鯉ヶ廻間上池・下池

花

サクラバハシノキ

アザミナシ

ニッポンイヌノヒゲ

ジュンサイ

スイラン

チョウトンボ

ミミカキグサ

こいがばさまかみいけ・しもいけ  
鯉ヶ廻間上池・下池（茨ヶ廻間地内）は、人工的な護岸がほとんどない自然性の高いため池で、ジュンサイやイヌタヌキモなどの水草のほか、カイツブリなどの水鳥やトンボがみられます。各池の流入部には湿地があり、サクラバハシノキの群落や湿地固有の生きものたちがみられます。

鯉ヶ廻間上池

# といきものの里

育むエリア～

にのいけしっちぐん  
二ノ池湿地群



ハッチョウトンボ (オス)



ハッチョウトンボ (メス)



ハルリンドウ



シラタマホシクサ



ヒメタイコウチ



トウカイヨモウセンゴケ

鯉ヶ廻間上池・下池  
(所在地 茨ヶ廻間地内)

二ノ池湿地群  
(所在地 前熊一ノ井地内)

にのいけ  
二ノ池湿地群（前熊一ノ井地内）は、市の南東部、  
さがみね  
三ヶ峯丘陵に位置する二ノ池上流の谷一帯の湿地群  
で湿地固有の生きものたちがみられます。周りの森  
はノウサギなどのほ乳類や森を好む鳥たちのすみか  
となっています。

※ 二ノ池湿地群は、許可なく立ち入ることはできません。

湿地の生きものたちの中でも、シラタマ  
ホシクサやトウカイヨモウセンゴケな  
ど、主に東海地方の丘陵地の湿地やその  
周辺のやせ地などでしか見られない特徴  
的な植物は「東海丘陵要素植物群」とよ  
ばれ学術的にも重要です。

夏の湿地

# ながくてふるさと いきものの里

～自然と暮らしの里～

ひがしやま やつだ  
東山の谷津田

ひがしやま やつだ

東山の谷津田には、本市内では少なくなった昔ながらの水田や水路が残っています。ここには水田を中心に林や草地など様々な環境があり、カエルやメダカなど今ではすみかが少なくなりつつある多様な生きものたちがすんでいます。また、上流には湿地があり、湿地固有の生きものたちがみられます。



東山の谷津田  
(所在地 東山、福井周辺)



三ホシタンポポ



トノサマガエル



赤トケノザ



キツネ



ヘイケボタル



ワレモコウ

谷津田とは、小さな谷間につくられた水田のことです。このような水田の周りでは、水路の泥上げやあぜの草刈りなど、人の手によって様々な環境が維持されてきました。

## 外来種って何？

「外来種」は、外国など日本以外の場所から人が故意に持ち込み、人の活動に伴って侵入してきた、本来日本にいなかった生きものたちです。



ミシシッピアカミミガメ



オオキンケイギク



ブルーギル

## 外来種被害予防三原則

外来種をむやみに他の地域に

**入れない！**

飼っているペット（外来種）を野外に

**捨てない！**

外来種をこれ以上ほかの場所に

**拡げない！**

## 外来種は どうして 問題なの？

外来種が増えてしまうと、昔から長久手市にいた生きものたち（在来種）が、エサやすむ場所を奪われてしまいます。これでは、多様な生きものがすむ豊かな長久手の自然を未来に残すことはできません。



二ノ池

## 増えてしまった外来種は？

外来種はこれからも増えていくおそれがあります。

昔からその地域にいた生きものたちが生きられなくなるなど、問題が大きくなってしまった場合には、駆除することも考える必要があります。

長久手市では、市民と一緒に外来種について考える勉強会を開き、ミシシッピアカミミガメの捕獲やオオキンケイギクの抜き取りを行いました。



ミシシッピアカミミガメ捕獲



オオキンケイギク抜き取り

忘れてはいけないのは、外来種も命ある生きものということです。外来種そのものに罪があるのではなく、持ち込んでしまった人間に問題があるのです。私たちひとりひとりが外来種の問題を理解し、よく考えて行動することが大切です。

## ながくての豊かな自然を 残していくために

私たちの暮らしは、多くの生きものたちに支えられています。きれいな水や空気、食べもの、衣服、薬など…たくさんの恵みを生物多様性（様々な生きものたちが豊かな個性をもち、お互いにつながりあっていること）から受け取っています。しかし、近年では自然環境の開発、里地里山の手入れ不足、外来種の侵入、地球温暖化の進行などにより、多くの生きものが絶滅の危機にさらされ、生物多様性が脅かされています。このような状況が続くとどうなるのでしょうか。今までどおりの暮らしを続けられるのでしょうか？

生物多様性からの恵みをこれからも受け取っていくために、私たちは何をすればよいのでしょうか。まずは身近な自然に目を向け、私たちにできることを、みんなで考えていきましょう。

## 私たちにできること

- ながくての自然や生きものをあらためて知ろう
- 身近な生きものと関わりあう時間と場所を大切にしよう
- 自然環境を守るための活動に参加しよう
- 生きものの通り道や休憩場所になるよう壁面を緑化しよう
- 動植物を育てるときはできるだけ地域の在来種を選ぼう
- 野生動物にエサをあげないようにしよう
- ペットは責任をもって最後まで飼おう
- 地元でとれたお米や旬の野菜を食べよう
- 間伐材を使った製品をえらぼう



保全活動



観察会

発行年月 | 2022年 5月

発行者 | 長久手市暮らし文化部環境課

〒480-1196 長久手市岩作城の内60番地1

電話 0561-56-0612 FAX 0561-63-2100

E-Mail kankyo@nagakute.aichi.jp

写真提供：長久手湿地保全の会

みどり豊かな長久手を子どもたちに引き継ぐために  
長久手市  
ゼロカーボンシティ宣言

2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロを目指します。

長久手市  
NAGAKUTE CITY